

② 社会参加支援の新たなカタチ「ヨコハマいきいきポイント」

1 はじめに、93歳のボランティア

平成23年9月、港北区の横浜市高田地域ケアプラザに、敬老の日になんで、天皇皇后両陛下がご訪問された（写真1）。訪問先となった横浜市高田地域ケアプラザでは、介護支援ボランティアの最高齢、93歳（訪問当時）である山口千恵子さんが週1回デイサービス利用者にお茶出しをしたり、話し相手になったりといった介護支援ボランティア活動をされている。

このような高齢者の社会参加をさらに進めるため、本市においては、横浜市介護支援ボランティアポイント事業、通称ヨコハマいきいきポイン

写真1 天皇陛下とのご懇談の様子



トを実施している。

2 ポイント制度の概要

ヨコハマいきいきポイントは、本事業に介護支援ボランティアとして登録した65歳以上の高齢者の方（以下「登録者」という。）が、介護施設での介護支援ボランティア活動や高齢者向けの配食・会食サービス等を行った場合に、1回当たり200ポイントがつき、その累積ポイント数が1,000ポイントを超えると換金・寄付（1日200ポイント、年間8,000ポイントが上限）ができる制度である。（図1、図2）

なぜ、「換金」まで行うか。

それは、活発に地域で活動をしているような、現時点で介護サービスを必要としない高齢者の介護保険料負担軽減策（ポイントを換金して介護保険料に充てる）として、東京都稲城市の発案を受けて、国で検討が開始された経緯がある。結果として、国から、地域でボランティア活動に取り組む高齢者の活動実績をポイントとして評価し、現金に還元できる仕組みを介護保険事業の一事業として実施できる旨の通知が平成19年に示された。稲城市では20年4月から本格実施している。

本市では、第4期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（計画期間：21年度～23年度）において、「高齢者が、健康でいきいきと生活し、介護が必要になっても、その人にあったサービスを利用して自分らしく生活できる街の実現」を基本目標として掲げている。この達成のため、介護予防や社会参加、生きがいづくりを支援することを目的として、本事業を21年10月からモデル

事業として開始し、22年4月から本格実施した。さらに、同年10月には、それまで特別養護老人ホーム、介護老人保健施設及び地域ケアプラザでの介護支援ボランティア活動のみであった対象活動を、通所介護やグループホーム等の活動や地域の配食・会食サービス活動等にも拡大した。

事業開始から現在までの2年4か月で、登録者数は5,653人（24年1月末現在）となっている。また、介護支援ボランティアを受け入れ、ポイントを付与することができ

図1 ヨコハマいきいきポイント概要

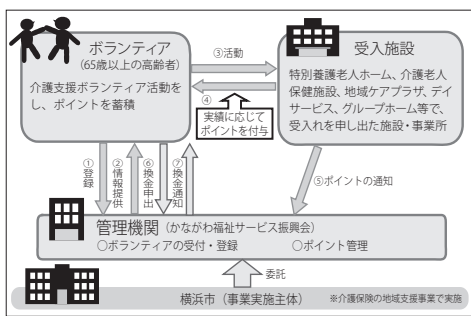
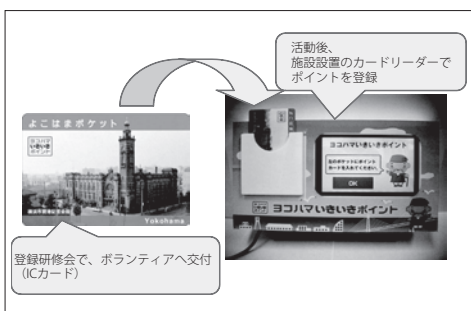


図2 ポイント付与の方法



執筆

堀 雅史
健康福祉局介護保険課担当係長

柳 史生
健康福祉局介護保険課

中島 遥子
健康福祉局介護保険課

という。)は277施設である(24年2月1日現在)。

3 登録者の声

① 仲間とのつながりに

平成23年2月に実施した登録者へのアンケート結果(以下「登録者アンケート」という。)によると、「活動して良かったことは?」との問いに対し、「役に立った実感が得られた」、「健康につながっている」、「元気がもらえる」との回答とともに、「ボランティア仲間ができた」との回答が

表1 活動して良かったこと

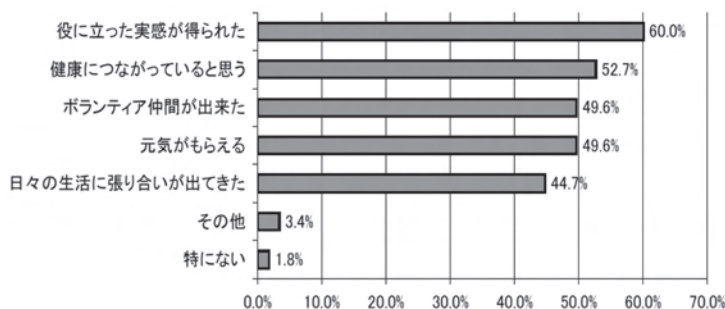
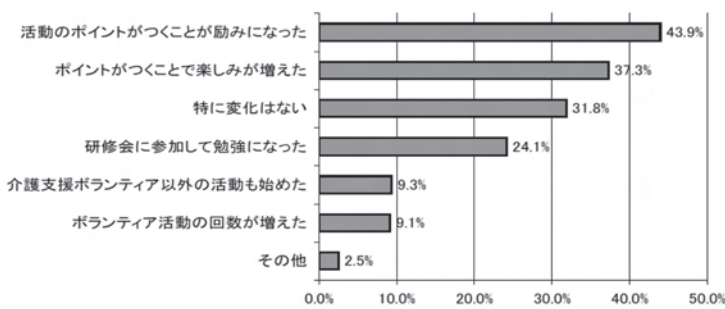


表2 いきいきポイント登録後の変化



49.6%あった(表1)。また、自由記載欄でも「活動することで、入所者の方、利用者の方、また活動仲間と輪が出来て嬉しい」、「多くの人とお会いすることが出来、楽しさを実感します」、「ボランティアの仲間と会食をしたり、話し合う機会が増えた」との意見もあり、活動が仲間づくりの環境になっていく状況が見受けられる。

② ポイントが活動の励み・楽しみに

登録者アンケートの「いき

いきポイント登録後の変化は?」との問いに対し、「活動のポイントがつくことが励みになった」に43.9%、「ポイントがつくことで楽しみが増えた」に37.3%の回答があった(表2)。また、ポイント事業自体の評価についても、「よい」、「まあよい」との肯定的評価を約8割の方からいただいている。

③ ポイント換金の使い道

22年度に、1,000ポイント以上のポイントが付与された1,791人のうち、換金申請をした方は1,733人(96.8%)となっている。また、申請者のうち、寄付の申出は441人(25.4%)、福祉関連の基金等への寄付とともに、ご自身が活動されている介護施設へ寄付される方も391人(22.6%)いた。聞くところによると、「活動させていたでいてる」との感謝の思いが介護施設に対してあり、その恩返しでその施設の運営に多少の支援になればとの考えで寄付されているようである。また、寄付以外にも、「活動仲間と食事会をして親睦を深めた」、「所属しているボランティア団体の活動経費にして活動の盛り上げにつなげている」といった声を聞いて

いる。ポイントによる収入を前向きにとらえ、有意義に活用していただいているようである。

4 高齢者の社会参加のきっかけになっているのか

① 介護支援ボランティア登録時

当事業においてポイント付与の仕組みは、「ポイントもあるから、やってみよう」との介護支援ボランティア活動を開始する際の敷居を低くする効果を狙っている。そこでボランティアの方に本事業に登録する際に受講いただいている研修会(以下「登録研修会」という。)では、ボランティア経験の有無に関するアンケートを取っている。これによると、今までボランティアをしたことがない方は17.7%(平成24年1月末までの累積値)と、ボランティアは初めてという方は約1,000人という状況である。全体の傾向としては、活動経験者が多い状況ではあるが、一定の活動初心者のきっかけづくりになっているのではないだろうか。

② 登録後

介護支援ボランティア活動を始めるには、まず登録研修

会で配布する介護支援ボランティア受入施設一覧表や受入施設が作成した介護支援ボランティア情報提供シートから登録者ご自身が活動場所を選び、受入施設に連絡を取り、事前打合せをしていただいている。また、登録者向け広報紙「ハマいき通信」では、活発に活動されている方の紹介やタイムリーなボランティア募集情報を掲載するなど、活動に結びつけるための情報提供をしている。

しかし、登録者アンケートでは、活動の有無について「ボランティア事業に登録しているが現在活動していない」と回答した方も1割程度おり、この方々に対して、活動するため必要な支援は何かという質問をしている。それに対しては「定期的に情報提供してほしい」「活動の体験ができる場が欲しい」という回答がそれぞれ4割以上となった。

そこで、前述の情報提供に加え、活動を体験する機会の提供として、22年度はお試しボランティアとして、一日から始められるボランティア募集情報を受入施設から集め、登録者の方に提供した。また、23年度は、うまく活動場所が見つけれず活動していない方約100名を対象に、受入

施設とのマッチングを実施している。その結果についてアンケートを行ったところ、回答者（52名）のうち、20名（38・5%）から「紹介を元に活動することとなった」との回答があった。

23年7月に実施した受入施設向けのアンケートでは、介護支援ボランティアの活動量についての問いに、約6割の施設が「やや不足」「不足」と回答している現状がある。本市としては、施設利用者の生活をより豊かなものとするためにも、多くの方々に介護支援ボランティアとして活躍していただきたいと考えている。ポイントの付与だけではなく、前述のような登録者の自発的な介護支援ボランティア活動に結びつける「仕掛けづくり」を工夫することにより、本事業をさらに進めていきたいと考えている。

5 まとめ、潜在層の掘り起こしへ

社会参加に対する行政の役割として、市民が参加しやすい仕組みづくりがある。介護支援ボランティアには、利用者の話し相手や食事の配膳・補助、洗濯物の整理、入浴の補助（服の脱ぎ着やドライヤー

かけ）など、日常生活の延長線上でできる活動や自分の趣味（楽器演奏や囲碁の相手など）を活かし活動できるなど、活動に入りやすいという側面がある（要介護者に対し、一定の配慮が必要なことはいうまでもない）。また、ポイントをとめるという楽しさもある。この活動への入りやすさ、楽しさが、高齢者の社会参加、居場所・生きがいづくりへのニーズをとらえ、5,000人を超える方が参加されていると考えている。

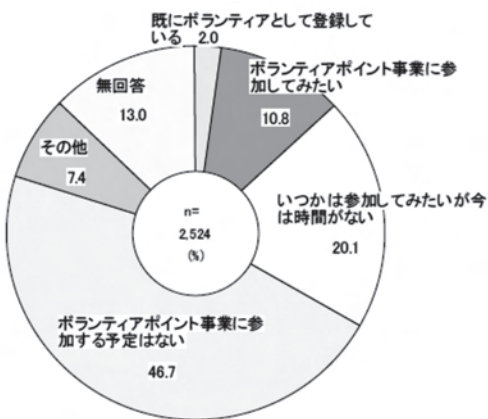
平成22年度横浜市高齢者実態調査では、「ボランティアポイント事業に参加してみたい」との回答が10・8%となっているほか、「いつかは参加してみたいが今は時間がない」との回答も20・1%となっている（表3）。これは、本事業の対象者が潜在的に多い（本市の65歳以上人口約72万人（22年1月現在）の10%が参加すると7万人となる。）ことを示している。そのため、今後、潜在的なボランティア層

に魅力的に映る事業の工夫をし、推進を図ることが課題となっている。

また、同じ質問で「ボランティアポイント事業に参加する予定はない」との回答が46・7%との現状もある。「参加しない」との個人の意思を尊重しつつも、本市として、現在登録されている約5,600人の「希望の星」の活動をより多くの方に伝え、関心を高めていただくことも必要と考えている。

そして、ヨコハマいききポイントを通し、介護支援ボランティア活動で地域社会とかわりをもちながら、楽しく充実したシニアライフを送るといふ、ひとつのライフスタイルの提案をしていきたい。

表3 ボランティアポイント事業への参加意向



参考資料
 ●「平成22年度ヨコハマいききポイント実施報告書」（平成23年8月）横浜市健康福祉局
 ●「平成22年度横浜市高齢者実態調査」（平成23年3月）横浜市健康福祉局